

解析対象となる体験区分と対象者数

(原爆体験者等健康意識調査報告書7ページ～8ページ)

(飛鳥井参考人提出資料)

① 解析対象区分

ア 基本調査

a 平成20年(2008年)11月末までに回収した調査票(有効回答分)を対象とした。

b 解析対象は、下表のとおり被爆群及び黒い雨関係群とした。

(理由)当初、比較対照群として原爆非体験群を想定していたが、分類上、この群に含まれる者の回答内容には欠損項目が多く、群としての位置づけが曖昧になることから、これに代えて、黒い雨関係群のうちの非体験群を比較対照群とした。(より群間差が表れにくい設定となった。)

また、転入群については、当初、原爆体験や原爆の影響が無い群(原爆体験者全体の対照)として設定していたが、実際には合併前の周辺町からの転入者が多かったためか、回答者に何らかの原爆体験を持つと回答した者が多く、原爆体験が無い者としての代表性を欠くと考えられたため、解析対象から除外した。

c 年齢は71歳以上の者とした。

(理由)個別調査で、被爆当時の出来事を十分に語れるほどの記憶を有するものとして、71歳以上を調査対象者の下限年齢としており、これに準じて基本調査の解析年齢を設定した。ただし、「現在治療等を行っている病気について」は現在の状況に関する解析であるため、71歳未満についても頻度を確認した。

イ 個別調査

対象者の認知機能を評価するため、長谷川式簡易知能評価スケールより日付と曜日、3語復唱と遅延再生、計算について検査した。合計15点満点のうち7点以下の者は認知機能に障害ありと判断し解析対象から除外した。(面談実施者891人のうち、解析対象から除外した者は22人であった。)

② 区分の定義と解析対象者数

(単位：人)

体験区分	定 義	解析対象者数	
		基本調査	個別調査
被爆群	① 直接被爆群 被爆者健康手帳所持者で、被爆区分が1号(直爆)の者	7,538 (11,301)	326
	② 入市被爆群 同被爆区分が2号(入市)の者	2,816 (3,438)	123
	③ 救護・看護被爆群 同被爆区分が3号(救護・看護被爆等)の者(ただし健康診断受診者証から切替の者は除く)	790 (879)	37
黒い雨関係群	④ 指定地域群(宇田大雨地域) 被爆者健康手帳所持者で、被爆区分が3号(健康診断受診者証からの切替の者のみ)又は健康診断受診者証所持者	470 (743)	63
	⑤ 未指定地域群(宇田小雨地域ほか) 被爆者健康手帳非所持者及び健康診断受診者証非所持者で、黒い雨にあっていと回答し、かつ体験場所も宇田大雨地域以外の宇田小雨及び周辺地域を回答している者	559 (845)	159
	⑥ 非体験群 ⇒ 比較対照群 被爆者健康手帳非所持者で黒い雨体験が無い者(その他の原爆体験やその影響について、いずれか一つでも「有り」と回答した者(本人又は家族に何らかの原爆体験又はその影響がある者))	2,200 (2,927)	161
原爆非体験群	被爆者健康手帳非所持者で黒い雨体験が無い者(その他の原爆体験やその影響について、全て「無い」、あるいは「わからない」と回答した者(本人又は家族に全く原爆体験が全く無い者))	(対象外)	
その他	上記区分に分類できないもの		
転入群	昭和25年から27年までに市内に転入してきた非被爆者		
計		14,373 (20,133)	869

(注) () 内は71歳未満を含む人数

個別調査対象者：被爆群＝基本調査結果で被爆区分と性別、年齢、IES-R得点とで層化し無作為に抽出した者で、調査(面談)に協力すると回答した者。④指定地域群及び⑤未指定地域群＝調査に協力すると回答した者全員。比較対照群＝調査に協力すると回答した者が指定地域群、未指定地域群よりも多かったため、指定地域群より調査協力者の人数が多い未指定地域群の対象者と性別・年齢層分布をマッチングさせ無作為抽出した者。